

留学生と語り合う

RKKニュース 50号 記念特集号 (2013年)

Relationship and Kindness are the Kings of Peace NPO法人 留学生と語り合う会 (RKK)

100号に向かって — 50号発刊に思う —

RKK理事長 大田 孝生



RKKニュース50号発行に当たり、いまでご協力、ご支援、ご支援いただいた多くの方々へ深く感謝申し上げます。

広報委員会より、「次の記念号(100号)発行の頃のRKKを展望した“予想記事”を書くよう」との題意(なんだい)を仰(おお)せつかり、返答に躊躇(ちゅうちゅう)しましたが、遊び心も手伝い、“未来への手紙”を書く積りで引き受けることとしました。

さて、100号が世に出るのは12、3年先、つまり2025年頃になりますが、政府(福田内閣)が打ち上げた「2020年、留学生30万人計画」がどの程度実現しているのかわかりませんが、少なくとも増加傾向はたどるとして、RKKが対象とする神奈川県(かながわ)の留学生も現在の8000人から相当程度増えていることでしょう。勿論、留学生の6割を占める中国の経済、社会動向が大きくブレないことが前提です。

一方、受け入れるその頃の日本では少子化による人材不足が深刻(しんこく)な社会問題になっているのは、まず間違いありませんので、女性の就業促進と相俟(あいま)って、人材としての留学生が大きくクローズアップされるのは目に見えています。日本はアジア各国の学生からみて、欧米の大学に比べ人気度は下回るものの、比較的容易にアルバイトが可能だし、距離的に近いことや自国に比べ給与水準の高い日本企業への就職希望がうんと高まっていることが考えられます。従って、RKKに求められる役割は日本語の指導や日本文化の紹介などを平面的にとらえるのではなく、今よりも飛躍的に多くの留学生が日本企業に就職して日本に生活者として長期に滞在することになるでしょうから、留学生支援活動はいま以上に多文化共生に視点を移して支援することが求められると思います。その意味で100号発行の頃のRKKの存在意義は現在より一段と大きくなっていて、会員の皆さんは大忙しになっていることと思います。

[Summary] Toward the 100ths issue — a thought on the 50ths issue —

Takao Ohta, Chairman of RKK

I would like to forecast RKK's activity at the time of RKK News 100th issue which will be 12-13 years later in the future. I am not a futurologist so this assumption is made on the basis of present condition would not change until then. It looks like that foreign students will increase since Japanese Government is planning to accept up to 300,000 (doubled from the former plan) foreign students in Japan on the year 2020. Meanwhile the population of young aged Japanese will decrease due to our low fertility. Consequently Japanese companies will hire far more foreign students than they do now. Thus the members of RKK would be much busier with increased jobs in a wider range to assist the students' job hunting activities as teaching how-to of selecting internships, writing entry sheets, attitude for job interviews, company manners or socialization with Japanese neighbors as a resident, in addition to teaching Japanese language.

Translated by Midori Hirayama



かながわ国際ファンクラブへのお誘い

RKKニュース50号に寄せて

神奈川県知事 黒岩祐治



RKKニュース50号の発行、心からお喜び申し上げます。

NPO法人 留学生と語り合う会におかれましては、発足以来13年の長きにわたり、国際交流と親善を目的に、神奈川県で学ぶ留学生ときめの細(こま)かい交流を続け、きずなを深めてこられました。歴代(れきだい)の理事長をはじめ会員の皆様のご尽力に心から敬意を表します。

現在、神奈川県内の大学などには約8,000人の留学生が在籍しており、特にアジアからの留学生は年々増加しています。また、県は、海外・外資系企業の誘致を進めています。神奈川県で学び、働き、暮らす方々が、国際的な活動の担い手となり、将来、世界と神奈川県をつなぐ架け橋(かけはし)となることを大いに期待しています。

こうした中、県は、平成24年5月、留学生など神奈川県ゆかりの外国人や、外国人を支援する県民、企業、大学等をネットワーク化する、かながわ国際ファンクラブ「KANAFAN」を結成しました。

外交は、基本的には国と国との交流ですが、本当に大切なのは、魂(たましい)が触(ふ)れ合うような人と人との交流だと思います。海外から神奈川県にいらっしゃる方々には、さまざまな交流や体験を通して、たくさんのお会いや思い出をつくっていただき、神奈川県のことを好きになってほしいと願っています。国内外の外国人の方々と、県民の皆さんが支援や交流を通じてきずなを結び、神奈川県ひいては日本とその国との太いパイプとなっていたくことが、私の考える「神奈川の外交」です。県民や企業、NPOの皆さんとともに、こうした取組みを進めていきたいと考えています。

今後、神奈川県で学ぶ留学生ときめの細(こま)かい交流を続けてこられた貴会の役割は、ますます大きくなっていくものと考えています。

皆様には、長年、培(つちか)ってこられた経験と実績を生かし、今後も留学生に温かいご支援をいただきますようお願いいたします。また、貴会会員や留学生の皆様にも、ぜひ「KANAFAN」にご入会いただき、「KANAFAN」の輪を広げる取組みにお力添(ちからぞ)えを賜(たまわ)りますようお願い申し上げます。

最後に、NPO法人 留学生と語り合う会のますますのご発展と、会員の皆様のさらなるご健勝、ご活躍を祈念しまして、結びの言葉といたします

ポータルサイト「かながわ国際ファンクラブ」 <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417340/>

会員登録ページ: <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417340/p472386.html>

新しい看板を掲げた黒岩知事と留学生たち

神奈川県暮らし文化国際課主導の下、かながわ国際ファンクラブが県内在住の外国人留学生に多面的な支援を目的に、KANAFAN STATION を12月1日、県民サポートセンター2階にプレオープンしました。オープンの式典では黒岩知事の開会挨拶に続き、出席のボランティア団体を代表し、RKK理事長が祝辞を述べました。(大田 記)



RKKの活動と留学生との相互理解

横浜国立大学国際社会科学部 教授 池田龍彦



RKKニュース第50号おめでとうございます。
RKKの活動に初めて接(せつ)したのは、2001年7月の工場見学プログラムで、東京電力横浜火力発電所やキリンビール工場に留学生とともにいった時でした。池添さんや大田さんをはじめ、多くのRKKのみなさんと留学生がリラックスして交流できるとても素晴らしい試みだったのを覚えています。私自身が米国留学の時に、同じような市民との交流を経験し、その後、お世話になった方々と3

0年以上交流していますが、その感慨深い経験と二重写しとなりました。

その後、工場見学や平塚七夕などでたくさんのお世話になっていますが、2007年からはファミリー交流プログラムとして、インフラ管理学プログラムの留学生に対しホストファミリーとなってくださり、日本の文化習慣や日本語を体験させることを通して、深いお付き合いをさせていただくようになりました。留学生たちは、大学のキャンパスや学生寮では決して味(あじ)わえない、日本人の普通の生活を特別に経験することができ、日本及び日本人を理解し、しっかりと落ち着いた本来の日本のよさを、身を以て経験して、真の日本ファンとなって帰国することになります。2年間の修士プログラムを修了して国に帰った留学生が文科省の国費留学制度で博士課程に進学できるようになったとき、真っ先に連絡したのがお世話になったRKKのホストファミリーだったとのこと。如何にRKKのみなさまに感謝しているかがわかることと思います。

横浜国立大学では、2012年5月の時点(じてん)で世界59カ国から現在861名の留学生が真剣に勉強しています。このうち、中国人留学生が471名と最も多く、次いで韓国137名、ベトナム53名と続きます。尖閣諸島や竹島の領有で国家間では緊張と対立が続いています。当該国(とうがいく)では日本への反発に関する報道が連日ありました。ただ、日本の社会を経験し、日本のよいところを十分理解している留学生たちは、故国での騒乱状態や反日デモに対して冷静かつ批判的でもあり、彼らが帰国して周囲に日本の真の姿を伝えたら、時間がかかるかもしれませんが、日本に対する見方が大きく変わるのではないかと期待するところです。

留学生に対するRKKの活動を通して、会員のみなさんが世界を実体験(じったいけん)するとともに、留学生たちが日本をより深く理解することになるよう祈っています。これまでのRKK会員のみなさまの留学生に対する活動に心より感謝するとともに、RKKのますますのご発展をお祈りします。



留学生親月の会へ参加

10月4日、恒例(こうれい)の横浜国立大学長主催「外国人研究者・留学生親月の会」が同大学第一食堂「れんが館」で開催され、それに参加しました。横浜国立大学在籍の各国留学生350人が出席し、学長挨拶に続き各国留学生が歌、楽器演奏など賑(にぎ)やかに繰り広げられました。また、同時にRKK他の留学生支援ボランティア団体との交流が各所で運くまで続きました。(大田 記)



日本語の魅力

秀明大学非常勤講師 河島 ゆりか

(RKK日本語指導法講習会講師)



学生時代、辞書を引いて、文の構造を考えながら外国語の文章を読んでいくのがとても好きでした。在学中、日本語教師養成講座が開講され、日本語も外国語として見る必要があることを知りました。日本語なら外国語では理解できない細かいニュアンスまで分析できるので、私に向いていると思い、勉強を始めました。これまでにさまざまな教育機関で日本語を教える仕事をしてきました。RKKでは会の発足のきっかけになった日本語教師養成講座からずっと講習会を担当させていただいています。みなさん熱心に話を聞いてくださるので、今年はどうな内容にしようかと毎年準備の段階から楽しみにしています。

私たちが無意識に使い分けしていることが外国の人にとってはむずかしくて、母語話者(ほごわしゃ)にとっても説明しにくいものです。教えるには日本語がもつ特質を知っていることと教えるためのテクニックが必要になります。また、日本語教育の視点から日本語について考えるのはとても楽しいことです。長い間、日本語を教えてきた経験から得たことをお伝えしたいと思っています。こちらから教えるだけでなく、学習者から教わることもたくさんあります。相手の国の文化や習慣を教えてもらうことはもちろんですが、質問されてはじめて日本語の使い方の不思議さに気づくことが今でもよくあります。この魅力ある世界に一人でも多くの方が足を踏み入れてくださることを願ってお話しています。

RKKニュース50号に寄せて

RKK顧問 山田 光義

(元横浜国立大学教授)



新しい年をむかえるのと軌(き)を一(いつ)にしてRKKニュースも50号という一つの峰に到達しました。

RKKは日本語教授法の講座を受講した方々が講座終了後も引き続き活動したいという熱意によって発足(ほっそく)し、今日(こんにち)に至(いた)っています。「継続は力なり」ということを痛感しています。

留学生たちが日本で充実した生活を送るためには、私は三つの面でバランスがよく取れていることが大切だと考えています。まず質の高い教育と研究の機会に恵まれること、次に学園生活で良き友を得ること、そして、日本の市民との交流の機会に恵まれて学校生活だけではわからない日本社会の現実に触れて、日本を深く理解することです。

私は社会人として企業に勤務した後に大学で教える機会に恵まれました。横浜国立大学留学生センターに外国人留学生の生活指導教官として採用されたのも、留学生教育に企業勤務の経験を生かすようにとの趣旨でした。

留学生教育に携(たずさ)わった縁(えん)で、RKKの顧問として在職中からRKKの皆様といろいろな活動を共にすることができました。日本の社会の第一線で活躍してこられた方々が、今度はボランティアとしてRKKで献身的に留学生のために活動しておられることに、私は常に深い感銘を受け、敬意を表しています。

RKKでは、会員同士、会員と留学生、留学生同士の三つの絆を強化することを総会で確認しています。今後共、RKK会員が留学生をも交(まじ)えて、国際交流について様々なテーマに基(もと)づいて懸念しながら勉強するという機会を大いに持ちたいものです。近隣諸国との関係が、政府ベースでは残念ながらぎくしゃくして

いるだけに、個人ベースでの理解を一層深めることの重要性はますます高まっています。まさに、RKKの活動分野です。今年もRKKの皆さまと一緒に活動することを楽しみにしています。

元留学生の便り

RKKが日本留学中にサポートした留学生が本国または日本で活躍しています。彼等が卒業後の状況、留学時代の思い出などを寄せてくれました。このように、RKKでは留学生との強い絆により留学卒業後も交流し、留学生を通じ国際親善を続けています。



私とRKKのこの十年

劉 建波（中国）



初めて、RKK見学活動を参加したのは今からちょうど10年前、2002年の12月のことであり、日本留学にきたばかりのときでした。その十年後の今の私は、すでに帰国してから1年半になり、青島科技大学、環境と安全学院の講師の一名になりました。

横浜国立大学大学院の環境マネジメント専攻の私にとって、自分の最初の日本留学目標は実現したと思います。

今の自分の仕事内容は、主に環境問題を中心として、エコマテリアルや環境保護と持続可能な発展という科目を教えています。それに関わった二酸化炭素の排出削減や、省エネルギー技術の開発や、リサイクルと再資源化技術の内容が中心になっています。

確かに、日本の優れた環境科学技術は中国の企業に対して、しっかり学んだり取り組んだりすべきなことであると思います。しかし、現実なことでは、中国企業の“三高一低”（高エネルギー消耗、高汚染、高排出、低経済効果）という問題はまだまだ深刻でしょう。特に我々環境科学専攻の大学教師にとって、重大な責任を持っていると思います。

幸いなことですが、RKKのお蔭で、私が日本留学の約九年間にずっとRKK見学活動を参加しており、数多くの日本企業、特に環境関連企業のやり方や、環境に関する取り組みなどを身近な感受をさせて頂き、今自分の講義の内容の一部になり、大学生に教えたり普及したりしています。しかも、私が帰国した後でも、RKKの深水智明先生も展示会、見学会などでもらった資料などを私に郵送して下さいました。自分の仕事に非常に役立ちました。

今まで、私とRKKの縁は十年になりました。日本留学の思い出の重要な一部はRKK見学活動の収穫であることは決して過言ではありません。RKKに恵まれて、日本企業の進んだ環境技術を学んで、中国の企業に広げたら、この地球の自然環境を守るには、非常に重要な有意義なことではないでしょうか。

RKKの皆様、本当にありがとうございました。（原文のまま）

【青島科技大学講師、中国在住、横浜国立大学大学院卒】



RKKニュース第1号寄稿(きこう)の思い出

通 暘 (中国)



RKKニュース第50号の発行に当たり、おめでとうございます。ちょうど今から12年前に東京電力南横浜火力発電所の工場見学に参加し、その感想をRKKニュース第1号に寄稿しました。当時はまだ学生の僕にとって、日本企業の工場見学は初めての経験であり、何もかも新鮮に見え、すべては驚きの連続でした。また、懇親会(こんしんかい)では、RKKの皆さんや留学生の皆さんとたくさん話が出来て、皆さんとの交流を深めてとても楽しい思い出になりました。

左から通暘さん、周亜萍さん(奥さん)、宇琪ちゃん(長男) 社会人になって10年目となった今年は、ちょうど日中国交正常化40周年という節目の年に当たりますが、周知の通り今の日中間はギクシャクした雰囲気なかなか好転しません。今まで日中友好に努力してきた人達はこの現状に心を痛んでいるでしょう。しかし、首脳外交は殆ど機能しない今でも、民間交流を通じて、一人ひとりの人間として相手を尊敬し、相手の文化を深く理解し、相手の気持ちを理解しようと努力すれば、お互いの国民感情はきっと良い方向に向かうと僕は信じています。四川大地震のとき、日本はいち早く救援隊(きゅうえんたい)を被災地に派遣しました。そして、昨年3月の東日本大震災の際、中国からも救援隊が派遣(はけん)され、救援物資が届けられたことは記憶に新しいはずです。このように、日中間のみならず、国際交流という広い意味で、RKKの果たす役割は今後ますます大きくなると思います。また、RKKの活動を通して、世界中における友好の輪もどんどん広がることでしょう。その実現に向け、自分なりに出来ることから1つずつ実行しようとする中で改めて決意をいたしました。

(原文のまま)

【日本在住、横浜国立大学大学院卒】

RKKとの出会いで得たこと

徐 曉晶 (中国)



日本での長年生活と言えば、横浜国大の勉強生活とRKKの皆様との交流活動がよく思い出されます。RKKと出会ったのは平成16年前後です。最初は仲間の紹介で、RKK中国語教室の皆様と出会い、中国語を教えました。優しい皆様からお話を頂き、経験がない私に勇気を与えてくれて、その教えることから自信や自己満足感を身につけてくれました。そのおかげで、RKK日本語の個人指導を受け始め、日本語学校に通ったことがなく、横浜国大の留学センターでローマ字から日本語の勉強を始めました。私は個人指導を受けたあとの一年後に日本語検定一級の試験に合格しました。また、

忙しい研究生活以外に、いろいろ市民活動に参加するチャンスをRKKからつくって頂きました。例えば、日本人との交流(中国料理教室、江の島の合宿)、工場見学など。そのことから、周りの日本人の優しさと中国に対する友好的な感情を充分感じさせられました。

日本社会や文化、そして日本人の考え方ややり方などをよく理解できまして、帰国後の仕事にもかなり役に立ちました。日本で習った先進技術を中国で活用して、中国環境問題の解決に努力しております。それは留学することにより、結婚や出産とかは同じ年の人よりかなり遅くなり、損と見られても後悔(こうかい)していない理由であります。最後に、RKKの皆様にお疲れ様でした、そしてありがとうございましたと伝えたいです

(原文のまま)

【中国在住、横浜国立大学大学院卒】

足掛け10年

柳仁周(韓国)



RKKニュース第50号発行、おめでとうございます。

季刊誌ですから、計算してみると発刊以来13年経つわけですね。

私がRKKに接してからだけでも足掛け10年になりますから、短いとはいえません。

私が2003年9月30日に来日し、横浜の弘明寺(ぐみょうじ)にある横浜国立大学の学生寮に入ったのは10月2日頃でした。その年の日本シリーズが行われていた時期で、寮の休憩室で野球を見てから外に出たら、玄関口にある郵便ポストに肩にリュックを背負った方が何かを入れているのに出会いました。

それがRKKとの初対面でした。その方のお名前を公表すると個人情報漏(ろう)えいになるかもしれませんが、この位はお許しいただけるだろうと実名をご紹介しますとそれは池添先生でした。

そのときの話の内容を具体的に記憶していませんが、留学生に日本語を教えるボランティア活動を通して、留学生たちを助けているとお話でしたので、それならいいですよ次にお会いする日を決めました。

約束した日にいらっしゃった先生は今の理事長でした。先生から、今は指導している学生がいるので他の先生を紹介してもいいですかと言われたので、結果的にたくさんのRKKの先生と知り合うことができました。

2006年3月29日に帰国するまで2年半に、私はお金では買えない貴重な経験をしました。

ここでは、その経験から二つをご紹介します。

日本にいれば、時間とお金さえあれば大抵のところはどこでもいけます。しかし、普通は男性が女子刑務所にはいけません。ところがあるとき韓国の法務省の職員から日本の群馬県にある女子刑務所に訪問するので通訳として手伝って欲しいという依頼があったのです。

その話を聞いて最初は迷ったのですが、勇気を出して引き受けることにしました。男子が女子刑務所に行くなんて考えもしなかったのが、今でもときどきそのときのことを思い出します。

もう一つは霞ヶ関(かすみがせき)にある国土交通省の大臣室に訪問したことです。日本人でも普通は大臣室に入ることはできないと思います。韓国から海洋大臣が訪日した際に案内役として参加し、直接、大臣室までは行かず待機室で待っていた状態でしたけど、留学生としては貴重な経験ができました。

他にもいろいろな経験をして、2006年3月28日修士号を取って帰国してから早いもので、もう6年が過ぎました。帰国してからメールや電話を通じてRKKの先生方と連絡は取っていましたが、2~3年前に釜山(ぶさん)税関事務室から日本の人が来て柳さんを探しているとの連絡がありました。出てみると池添先生で、親戚の結婚式に参加するために釜山を訪問されたとのことで、再会できて本当に嬉しかったです。2003年に始めてお会いしたRKKの先生も池添先生でしたから。もしまたご縁があって、いずれ私が定年退職したらぜひ実現したいと思っている四国お遍路(へんろ)をするときにでも、またお会いできたらと願っています。

最後に、RKKの皆様から心からの感謝のお言葉をお伝えしたいと思います。本当にありがとう御座(ごぞ)いました。そして、今後も世界中からやって来る留学生の人達の力になってくださるようお願い申し上げます。

(原文のまま)

【韓国在住、横浜国立大学大学院卒】



ベトナム国民が国花に選んだ蓮(はす)の花

ハノック ソン-Ha Ngoc Son (ベトナム)



日本人や日本で勉強している留学生にベトナムの文化について紹介したいと思います。ベトナムの文化スポーツ観光省は、首相に「国花制定案」を提出し、蓮が最有力候補となっています。2011年に行われた世論調査によると、6万票のうち蓮が71%で1位を獲得し、続く杏の18%、桃の7%を大きく引き離しました。

ベトナム人にとって蓮は、世代を超えて特別な文化的存在です。田舎(いなか)のあちこちで、広大な緑色をした美しい蓮の池が見られます。ベトナム人の心に深く根付く蓮は、質素や温かさ、純粋さの象徴とされています。蓮は葉、つぼみ、花、種子、茎や根から成り、濁(にご)った池で育つが水を浄化する作用があります。特に、花が咲いて枯れるまで、蝶(ちょう)や蜂を寄せ付けません。仏教では蓮は神秘、幻想、奥深さの象徴であり、「花」は過去を、「がく」は現在を、そして「種」は未来を表すといわれています。仏教建築の世界では蓮は救済や悟り(さと)りを意味します。蓮の形を模(も)したハノイの柱寺(いっぢゅうじ)やバクニンの傘塔寺(ふでとうじ)は有名です。蓮はまた、ベトナムの茶の文化においても特別な要素となっています。蓮の花の咲く時期の月夜、お茶の愛好家は池に舟を浮かべます。今にも咲きそうな蓮の花の中に茶葉を入れ、リボンやひもで閉じた後、蓮の葉に貯まる夜露を収集します。こうして夜明けまでに、花の香りが茶葉に染み込み、夜露でポットは満たされます。愛好家は数時間眠りについた後、最上の午後のお茶の時間を楽しむのです。(原文は英文)



【ベトナム在住、横浜国立大学大学院卒】

RKKの皆様に感謝を込めて

ラジャン タバ チェットリ-Rajan Thapa Chhetri (ネパール)



私は横浜国立大学の学生として学校の寮に入ってからRKKと初めて出会いました。私のポストに入れていただきましたRKKのチラシがきっかけで、このNPO法人に対する興味が湧(わ)き、参加することを決めました。その後、いつもRKKの活動等の様々な情報をいただき、見学やイベントにも参加しました。初めての見学は、汚水処理施設(おすいしよりしせつ)と乳製品工場で、その後、発電所、キリンビール工場、日産自動車工場、不二家ケーキ工場の見学は本当に勉強になりました。参加当初、メンバーの人数は今より少なかったですが、最近は規模も大きくなり活動範囲も広がっています。

留学生をターゲットとして設立したこのNPO法人は、留学生の生活に大切な役割を担っており、例えば、日本語や中国語を教えたり、スピーチコンテストや見学等を行ったりしています。留学生との交流を一番大事にし、あたたかい愛を込めてアドバイスをくれたり、日本文化を教えているのはRKKの最も良い部分だと思います。

このような交流のお陰で、多くのメンバーと繋(つな)がりを持つことができ、更に、ネパールの村の学校に支援できたことに、大変感謝しております。個人では知ることが難しい日本文化や生活様式、また工業の技術についても、RKKを通して身近に感じることができました。会長の大田様、吉田様、深水様をはじめ、多くのメンバーの方々に感謝を伝えるとともに、これからもこの法人とのつながり強く結んでいきたいのでよろしくお願いたします。(原文のまま)

【日本在住、横浜国立大学大学院卒】

第2の故郷

ジギャン クマル タパー Jigyam Kumar Thapa (ネパール)



RKKニュース第50号記念誌のご発行おめでとうございます。

慣(な)れない日本語での生活に不安を感じる留学生にとってRKKの活動は心の支えになり、日本語の勉強はもちろんのこと、日本を正しく理解する上でも大変役に立っていると思います。これはひとえにサポートしてくださっている皆さまのご努力の賜(たまもの)と存じます。元留学生の一人として改めて御礼を申し上げます。

大学によるサポートは研究活動がメインではありますが、留学生も一人の生活者です。住まい、医療、就職、交流など様々なサポートを必要とします。大学院生の中では配偶者やお子様も連れてくる人が増えています。留学生のニーズも多様化しています。国や自治体レベルで解決をすべきことも多いですが、生活者として見た場合に支援団体同士の横の繋(つな)がりが必要ではないかと思えます。

江戸時代では14才ぐらいで元服と言ひ、成人としてより高い社会貢献が期待されたと言われていました。RKKの設立も14年目になり、すでに日本語指導やファミリー交流など様々な事業を通して日本と世界を繋ぐ橋渡しになっています。また日本の方々との出会い、ホームビジットなどを通して日本は第2の故郷と思う学生も多いです。今後は、大学を卒業してそれぞれの国で活躍している元留学生とも継続的な交流プログラムができれば、更(さら)に友好親善の推進ができると思います。

今後もRKKの関係者、現役留学生の皆さまの発展・活躍を心よりご祈念(きねん)申し上げます。

余談ですが、最近インターネットによる交流が多いです。留学生もfacebookに代表されるようなSNSを多く利用します。しかし、大事なものはそうしたネット上のコミュニケーションではなく、face to faceのコミュニケーションだと思います。

RKKの活動はおうちの訪問やおうちでなくても、会って目と目を合わせて話をする、これは留学生にいかにか大切なものか、私もワイフがRKK大久保先生にお世話になっており、実感しています。(原文のまま)

[日本在住、(公財)かながわ国際交流財団、横浜国立大学大学院卒]

タイからのメッセージ

タバノン シリアピシット Thapanon Siri-apisit (タイ)

タイからのメッセージです。私はタバノンと申します。

2008年から2010年まで神奈川県横浜市の大学に留学しました。日本に行った時は日本語の日常会話くらいは話せましたが、実際に学校のそれぞれの科目を勉強する事や生活に使う言葉など全然十分でなかったのです。その時にRKKのHさんにお世話になりました。週に3~4回学問の事や生活の相談など教えてくれました。

私にとってはとっても助かりました。分からない日本語がたくさんだから苦労して教えてくれました。たまにはRKKと一緒に見学に参加しました。例えば、工場の見学と平塚の七夕祭りはとっても楽しかったです。RKKの色々なお世話をいただいて日本に留学することは楽になりました。とっても感謝の気持ちずっと思っています。

日本から離れておよそ2年間になりました。日本のことや皆様へ優しく御世話して頂いて、いい思い出です。いつかまた日本に行ってゆっくり皆さんと話そうとすることができたらいいねと思います。タイに来てから日系企業に勤

めています。最近タイに進出している日系企業が多くなったから日本語が話せる人物を大歓迎しています。日本の会社の特殊な方針や経営方式などがタイと全然違いますので、タイ人の社員は日本の習慣が分からなかったら仕事するのは辛(つら)いと思います。特に、タイのことが全然分からない日本人の経営者はタイ人の社員と仕事が合わない事でよく問題になっています。自分の考えることは正しく思っていて他の意見を聞かないことがよく起こっています。私は日系企業に働いている経験から、問題は会社の方針ではなくて本人の問題だと思えます。タイに進出し成功するためには、まずはいい経営者で地元の習慣を知り、功德(くどく)の心を持つ人を選ぶことが必要です。今日本は円高なのでこれから日本がどんどん海外に投資することが多くなると思えます。タイだけではなく東南アジア各国にも投資予定がありますが、お互いにその国のことを十分勉強ができれば事業が成功すると思えます。

言語を習うことは、ただ話せるだけではなくどう言う風にコミュニケーションして伝えるかが重要です。私も日本語を習って日本の文化習慣にも興味があって勉強しています。就職しても勉強しています。上司に褒めてもらうだけではなくて、日本とタイの友好関係が続いてほしいからです。また人々の交流だけではなく直接投資や貿易により経済関係もより広がってほしいと思います。(原文のまま)【タイ在住、神奈川大学大学院卒】

交流による宝物

ウオン ミー チー —Wong Mee Chee (マレーシア)



2009年3月に帰国した。現在、基板生産会社(きばんせいさんかいしゃ)の営業部に勤めています。毎日仕事におわれ、忙しいです。

いつも疲れる時に日本で留学した生活を思い出します。特に日本人と交流のことである。国外で生活することは心配であったが、楽しみにもしていました。私にとって、見るものや聞くものはすべてが珍しい。もちろん、最初は異文化対応の問題がありました。しかし、この三か月で次第に自立できるようになりました。そして、さまざまな活動に参加したり、新しい友達ができたり、いろいろなところを見学したり、毎日が非常に充実した留学生生活を過ごしました。私にとって、留学生活の中で、一番面白いことは日本人との文化の交流であります。私は日本語の能力を高めるために、地域の国際交流の課程はもとより、日本人との言語交換も積極的にした。それで、多くの日本人と友達になりました。

ボランティアをするRKKのAさん、海老名のMさんはいつも私のことを世話してくださった。また、日本の事情、文化も教えてくださった。私にとって、AさんもMさんも私の家族のようであります。言語交換しているAさんは年齢が近いので、いつも多くの生活の悩みあるいは気持ちをつかち合うことができました。

現在、日本と離れても年に一人二人の日本からの恩人・友人が訪ねてくださり、何よりも幸いに思っています。私にとって、永遠にみなと仲良く友達でいられることを望んでいます。

そして、みなさんのよい健康を願っています。(原文のまま)【マレーシア在住、神奈川県立保健福祉大学卒】



欧米人の立場からの日本語の難しさ

マルコ ユスツプーMarko Jusup（クロアチア）

欧米人にとって、日本語が難しいのはなぜでしょうか？

日本語は欧米人が理解できないことが往々にしてあります。難しさの原因が何か、その由来（ゆらい）のいくつかをピンポイントで少し考えてみましょう。

1. まず初めに、今の日本語は3つの異なる言語のグループがあることです。

1つ目は、【和語】（わご）と呼ばれるグループ、これは昔から日本人がずっと使ってきた元々のもの。

2つ目は、【漢語】（かんご）と呼ばれるグループ、これは5世紀に中国との文化交流と共に入ってきたもの。

最後は【外来語】（がいらいご）です。これは中国以外の外国からきたものです。現在の日本語はおおよそ49%の【漢語】、34%の【和語】、そして9%の【外来語】、（残りの8%は一意的に分類できないもの）から成り立っています。

2. 【漢語】のグループは多分、欧米人にとってもっとも難しいものでしょう。次の言葉は難しい例ですが、Kokyou「故郷」、Koukyo「皇居」、Koukyou「公共」、これらは発音ではすべてがほとんど同じように聞こえます。したがって、欧米人はまずは、それらをはっきりと記憶し、区別する努力が必要なのです。

もちろん、これらの言葉は文字ではまったく異なる漢字で書かれていて、日本人の多くの人はただちに理解できるのですが、日本語の初心者には新しい言葉を学ぶ場合に、言葉がそれぞれどのような文字で書かれているということよりも発音を覚えますので、難しいのです。

最後に、【漢語】をマスターするには漢字（文字）をマスターすることが要求されますが、それは我々には難しいことです。

3. 言語に3つの異なるグループがあることは、日本人には同じ考えや同じ意味を伝えるために種々の方法を選ぶことができます。たとえば、「スタート」【外来語】、「始める」【和語】、「開始する」【漢語】について考えてみましょう。これらは辞書で引くと全部が同じ意味とされていますが、微妙にニュアンスは違うようです。欧米人にとって上記のうち2つは似ていますが、重要なポイントは3つ目の言葉「開始する」で、これはその時の状況でどのように使うか、それが誤りかどうか分からないことです。欧米人から見た日本語の難しさについては、多くの事例が示されていますが、この3つの事例が日本語に懸命に取り組んで勉強している人への提言になれば幸いです。（原文は英文） 【九州大学教官、日本在住、横浜国立大学大学院卒】



中秋節＊国慶節聯歡会に参加

10月18日に開催されました中秋節・国慶節聯歡会（こっけいせつ・れんかんかい）（横浜地区中国人留学生学生会主催）に大田理事長と共に参加しました。この聯歡会には、留学生を中心に写真のように多くが参加され、「れんが館」のホールがいっぱいでした。ボランティア団体等が6グループ程度の参加もありました。催しは学生会の挨拶（会長、副会長）、来賓の挨拶、中国舞踊（ちゅうごくぶよう）、賞品のくじ引き等でありました。来賓の挨拶の一部には中国との問題に触れる人もいましたが、留学生からはそのような話しは全くせず、彼らの方がよほど気を使っているように感じました。（深水 記）



活動グループの便り

RKKでは、留学生を支援するために主に4つの活動(下記)を推進しています。
ここに活動グループの“これまで”、“これから”、そして、“抱負”(ほうふ)等を述べました。



日本語指導グループ

活動の“これまで”、“これから”

日本語指導グループ 岩科 咲子



時は十数年前にさかのぼります。当時の神奈川県高齢者協同組合の主催で、「日本語ボランティア養成講座」が戸塚で開かれ、指導講師のお一人が河島ゆりか先生でした。間もなく受講生の有志が結成したのがRKKです。ですから、RKKは日本語指導のボランティアにルーツがあるのです。

現在もRKKの活動の中心は日本語指導で、日本語指導グループの重要な担当分野です。現在、会員約40人が留学生50人余りに1対1で、各々のレベルや要望にあわせて指導をしています。指導者の技能レベルや会員を募集するために、日本語指導グループが毎年開催しているのが「日本語指導法講習会」です。2001年の第1回から2012年の第17回まで、ある期間は年2回実施し、講師は一貫(いっかん)して河島先生です。先生の講義は分かりやすいと好評で、毎回30人から40人が受講し、数人の入会者があります。近年、他の国際団体も同様の講習を行うようになりましたが、RKKは先発組として、経験を活かし、独自色(どくじしょく)を加えて、この講習を一層充実させていきたいと考えています。

「日本語スピーチ大会」も日本語指導グループの大切な行事です。2004年の第1回から2012年の第8回まで、ほぼ毎秋開かれ、毎回7、8人の留学生が日頃、学んでいる日本語を使って、様々なテーマで語ってきました。発表に続く交流会がまた楽しく、留学生達を囲んで盛り上がりです。世はまさに急速なグローバル化時代、日本語指導グループの活動をより活発化させるまたとない機会だと思います。

(第8回日本語スピーチ大会の状況を後頁に掲載)

社会・工場見学グループ

社会・工場見学活動の今後

社会・工場見学グループ 深水 智明

社会・工場見学グループは、RKK発足時(1999年)に日本語指導グループ等と共に留学生の支援に有益として組織されました。その趣旨は、日本の工場・技術などを見て、産業の現状に直に触れ、大学では取り上げない実務的な学習支援による留学効果を高めることであります。当初は工場見学・産業実地研究グループと称しておりましたが、その後、著名(ちよめい)な社会施設等の見学を含めるようにし、社会・工場見学グループとして活動しています。現在、一般社会においても工場見学が大きな関心を呼んでいます。したがって、人気がある企



業の工場見学は3か月以上前からでも見学の予約が取れない場合もあります。また、それを裏付けるように、数種類の工場や社会見学会内の雑誌が発刊されております。一方、留学生のために有益と思われる企業(工場)の見学が許されないことも多い状況です。当グループでは、見学会自体の開催と共にRKK活動の活性化のために見学会を留学生と会員との絆(きずな)を強める交流の場、さらに、留学生が日本人との生きた日本語会話を試みる場の提供にも努力しています。

今後、社会施設、文化・旧跡、教育機関などの見学領域の拡大、さらに見学内容の充実を図り、留学生の日本における就職のための企業研究の一助になればとも考えています。希望的観測ですが、将来は遠地への1泊見学会などに挑戦し、日本留学時の学習効果および交流をより高めるための努力をしたいものです。

ファミリー交流グループ

ファミリー交流グループのこれまでの活動と今後の抱負

ファミリー交流グループ 河村 ひろみ



ファミリー交流グループの活動は2007年度から始まりました。交流相手は横浜国立大学のIMP(インフラストラクチャー・マネジメント・プログラム)の留学生です。

学生は発展途上国から道路、ダム、発電所、病院などの環境施設などについて学びに来ています。今年度(2011.4~2013.3)は第3期(1期は2年間)になりますが、ミャンマー、ブータン、エチオピア、スーダンなど12カ国、14人の学生が対象です。

これまでの交流を簡単にお話ししたいと思います。まず、6月に留学生とホストファミリーの組み合わせを話し合いの上決めます。その後は平塚(ひらつか)の七夕祭り、六会(むつあい)のねぶた祭りに参加したり、お茶、お花見会、フェアウェルパーティを催したりです。あとは個別に、それぞれのスタイルで交流しています。家庭に招(まね)いて一緒に手巻きずしを作ったり、反対に留学生に自分の国の料理を作ってもらったり、飲みにいたり、ハイキングにでかけたりといろいろです。

留学生が日本に滞在した2年間を、ああ、楽しかった、良かったなあと、ふれあった日本人の”顔”とともに思い出してくれればと思っています。

中国語学習グループ

RKK中国語学習グループの活動と今後の抱負

中国語学習グループ 山崎 令氏

はじめに、中国語学習グループの生い立ちを振り返ってみたい。

1999年6月26日に開催された第二回「留学生と語り合う会(RKK)」総会で中国語学習講座の開設が決定されました。それは、RKKの支援活動のGive and Take 中でTakeの部分も一本の柱として取り組むことが必要ではないかとの意見に従ったものでした。開講は8月5日、毎週1回の時



間割でRKK留学生会員であり、横浜国立大学経済学部の学生であった張 鵬先生に講師をお願いし、受講者4人でスタートしました。以降、学習は順調に運び現在に至りました。何よりも我々が恵まれたのは、時々の講師をお願いしたRKK留学生会員の8人の先生方の素晴らしい見識(けんしき)と教育方法でした。現在、日本の企業に就職された方、中国の環境問題の改善に取り組まれている方、また中国の出身母校で教授・助教として教壇に立たれている方などそれぞれが大変ご活躍されています。これらの講師の方々の推薦による順送りでの現在の講師、横浜国立大学大学院研究科の孤獨 輝覚先生へとつながっております。

次に、グループの一つの目玉(めだま)は研修旅行として毎年、定期的に主として中国に行っております。第一回は、2001年8月の大連旅行で、この時にお世話になったのは、かつて講師をお願いした大連東北财经大学の孫 垂鋒助教授でした。大学関係者に大変歓迎されRKKとの交流の輪を広めることが出来ました。その後も、同様に帰国された講師のお世話になり8回もの旅行をすることができました。

終わりに、中国語は日本人にとっては比較的難しい言語と言われますが、平易な日常会話ができることにお互いの達成目標を置いて、今後共、笑いのある楽しい勉強会を続けようと思っております。

初心者がいづれでも途中から参加できるようにカリキュラムを工夫し、RKK会員のみならず外部からの受講生も募り、この分野でのRKK活動のPRと発展をもくろんでおります。

また、これからも講師はRKK留学生会員の中におられる素晴らしい人材をお願いして、他に引けをとらない中国語学習講座を維持する所存(しょぜん)です。

地区の便り



RKKでは、留学生支援の力を増し、かつ、会員間の絆(きずな)を強めるために、会員の居住地区(きょじゅうちく)ごとに6地区を設定し、地区ごとに交流会を設けております。その交流の中で、留学生支援について勉強しております。

教えながら学ぶ

東地区 服部 謙治



私は昨年8月から今年3月まで中国人留学生(女性)を指導しました。留学生は大学院修士2年生で、今年4月から日本の企業に就職することが決まっていた。このため彼女は会社に入って話題になる日本語を教えてもらいたいということ、また、現在、大学、会社などに提出する資料のチェックをして欲しいという希望を持っていました。大学への提出資料では、夏休みに経験したホームステイの感想文、中国で開催の学会への出席依頼書等でした。いずれもしっかりした文章(何を相手に伝えたいか明確)だったので、細かなことは直さず明らかに表現としておかしいところだけを直しました。

会社の話題では、女性同士の話であれば、私は指導者として対応(ふさむ)しにくいと思いましたが、もっと一般的な社会人として知っておくべきことを教えるのが良いのではと考え、給与明細(きゅうめいさい)に書かれている用語(所得税(しよとくぜい)、住民税(じゅうみんぜい)、厚生年金(こうせいねんきん)保険料、健康保険料、雇用(こよう)保険料など、ビジネス・マナー、入社式での注意事項、“ことわざ”などを説明しました。

彼女を指導しながら、実は私自身が学んでいることに気が付きました。たとえば、石川県(いしかわけん)ではJAPAN TENTという留学生を招(まね)いて日本文化を体験してもらったホームステイが24年も続いていることを知りました。給与明細の用語などは正確に根拠(こんきょ)を示して説明するため勉強しました。また、新聞・雑誌を読む場合でも彼女を指導するのに役立たないか意識するようになりました。

今後とも、留学生に日本語と日本文化を教えると共に、留学生から若いエネルギーを貰(もら)い、私自身の好奇心(こうきしん)の対象を広げ、活力の基(もと)にしたいと思っています。

RKK南地区の現況と将来について

南地区 布津 甚大



このたびRKK南地区では2人の新会員を迎え、総勢15人の会員数になり、年々、増員し充実してまいりました。そのうち、9人のチューターが13人の留学生と交流しております。

ご承知のごとく、南地区は弘明寺(くみょうじ)の横浜国立大学留学生会館および大岡レジデンスの2か所をホームグラウンドにしていることから、大部分の日本語指導を希望する留学生の窓口になっております。それらの留学生への対応をできるだけ早急にすべく、日々活動しています。その中であって、山手にある中央大学付属横浜山手中等学校のインタークラスとの異文化交流会を行いました。RKKから3人の留学生を送り込(こ)

みました。今後、これを機会に当学校とRKKとの企画が発展することを期待しております。

ご承知のとおり、RKKがサポートする留学生はアジア系留学生が9割近く、この地域に集中し過ぎている感があります。RKKの今後の課題として、今後もう少しバランスをとるために多くの国の留学生との交流が必要かと思えます。あらゆる機会や人脈を通して、幅広く接点(せってん)を広げていく必要が大切に思います。そのような中で、今まで交流があり、今年9月に帰国したイギリス シェーフィールド大学の交換留学生レベッカさんおよびドイツ エルフルト大学の交換留学生カリスさんの入会と留学する新人をよろしくとのメールがあり、それぞれの新人留学生と面接し、RKKへの入会と英語圏の留学生グループの紹介をお願いしました。

最後に、先日、南地区交流会の席上、領土問題で揺(ゆ)れる政治問題を超越(こ)えて、我々は沈着(ちんちゃく)、冷静(れいせい)に腰(こし)を据(す)えて、人対人(ひとたいひと)を大切に対処(たいしょ)しようと呼びかけました。

私の日本語指導

西地区 下村 斉明



今回、原稿を依頼されて、ふと振り返ってみたら、RKKで指導を行うようになって足掛(あしか)け10年、前回、同じ表題で寄稿してから、もう4年も経過しました。将(まさ)に「光陰矢(こういんや)の如(ごと)し」であります。

現在、私の生徒は3人いますが、全て社会人。内2人は4年前と同じ顔ぶれで、教材は日本経済新聞の朝刊コラムを使用しています。進歩と言えば、4年前はコラム1件でおおよそ90分の授業が一杯(いっぱい)一杯だったのが、最近では2~3件の教材を準備しないといけない状態になってきました。単語の意味、文脈の捉(とら)え方、内容の理解力がかなり上がってきているように感じます。「石の上にも3年」という諺(ことわざ)を目の前で見ているようであります。3人目の生徒は、本人の意欲はありますが、中国と日本を往来している関係もあり、週1回に授業ではなかなか日本語が上達しない。最近では本人もそれに気が付いたようで、毎日、授業がある有料の日本語学校に通い始めました。私もその学校で使用しているものと同じ教材を購入し、私の授業ではその補講という位置付けで、日々の授業でよく理解できなかったところを解説するという形にしました。

生徒には、文・理系出身者が混在しているので、何時、どんな質問が来るか判らないため、できる限り受容範囲(じゅうはんい)を広げた情報収集を心がけ、これが結構、役立っていますし、自分自身への刺激にもなっていて、老化防止の一助にもなっているように思います。今後も可能な限り、続けて行きたいと思っています。

外国人への日本語、会話指導は楽しさと自己学習の繰り返し

西地区 橋山 規子



RKKに入会して約10年、私に対応した留学生は29人。個別対応への関わり方は千差万別(せんさばんべつ)で、留学生のニーズに沿って決して押し付けにならないよう心がけ、個々の力が発揮できるように支援してきたように感じています。その間、カタカナやひらがな・音訓(おんくん)読みがある漢字等を使った日本語表現や理解の難しさを常に思い知らされています。

最近のこと、来日間もない留学生が「日本語が勉強したいです」と直ぐにでも日本語を学びたい様子(ようす)らしいとの話を人づてに聞き、引き受けました。二回目の勉強会、欠席者が一人いました。Bさんは「Aさんはいたいです」と、さらにお腹を指さして報告してくれました。私は「おやすみですね」と、それに対して、Cさんは両手を合わせて頬(ほほ)にあて「寝る」動作をしました。怪訝(けげん)な顔の私をみて、Cさんは「おやすみなさい」と言語化してくれました。「おやすみ」から「おやすみなさい」を連想できたわけですが、「欠席」という語彙(ごい)は未学習(みがくしゅう)だったようです。その後、当日の予定にはなかった「やすむ」について、みんなで学びあいました。日本人にとっては易しいと思われる語彙「休む」でも、難しいのです。お互いに理解し合えたと感じたことも、時間を掛けて再確認するゆとりが必要のように思います。「異文化共生」の一端(いったん)であることを念頭(ねんとう)に歩いていこうと。

私は長年、留学生と接してきましたが、いまだに「日本語の指導」者には成り得ていません。これこそ難しいです。ささやかでも、支援者として留学生の目線や個性を尊重し、個(こ)のニーズに応えるべく努力を続けようと考えています。皆様へ感謝!

人との出会いに感謝

北地区 羽磯 素子



RKK北地区スタッフとして2年ほど交流会のお手伝いをしてきました。北地区交流会に出席してくださるのはいつも7、8人で同じ顔ぶれです。自分のやり方がまづいのでないかと自己嫌悪(じこけんお)にもなります。皆、それぞれご自分の事情を抱(かか)えながらやっておられるのだからと自分に言い聞かせています。せっかく、会に入って日本語を教え始めても生徒に根気がなくて上手(うま)くいかなかったりすると、出鼻(でばな)をくじかれた気がすると思います。いろいろなパーティとか工場見学とかに新人の方たちが出席できるよう機会を作ってあげてください。大田理事長がパーティに出席される時必ず新人の方に声かけて連れて行ってあげてください、入会する多くの人たちは留学生と交流したいからRKKに入ります。楽しいことがあることに気がつくと思える人も増えると思います。

人との出会い方がとても大事ですから、マッチングの仕事は大変だと思います。私の場合はエクアドル、ミャンマー、タイと素晴らしい方々と交流の機会を得(え)、上手(うま)くやってこられました。また、4月には自分がやっているお茶のグループにお願いして弘明寺(ぐみょうじ)の国際会館でお茶会を催(もよお)すこともできました。人との折衝(せっしゃう)、お金の心配で疲れましたが、またとないチャンスに恵まれました。

北地区は、来年は2つの国際会館が閉鎖とのことで、ちょっと心配ですが、まあ、先のことを心配してもしようがないので、また、何か知恵(ちえ)を絞(しぼ)って行かなければいけませんね。こうして交流を振り返ってみますと、お付き合いのあった方たちのお国の事情は掃(はら)かれた後も気になりますし、いながらにしている勉強させていただいています。未来社会で活躍される方たちのお手伝いが少しでもできるということには有意義で幸せなことです。感謝しています。

草の根に花咲くとき

中央地区 高島 千恵子

近頃(ちかごろ)、横浜国立大学の中国人の留学生の間で「RKKはいろいろある日本語ボランティアグループの中でも優れている」という噂(うわさ)(?!)があり、友達から友達へと紹介し合っているという話を指導している留学生から聞いて 話し半分でも嬉しく内心ニンマリしました。先輩方の努力が一部こういう形で実を結んで、RKKの評判を良くしているということなら、今現在、RKKに属している私たちも将来のRKKのためにコツコツと地道(じみち)に誠実にユーモア精神を持って留学生と向き合っていく今の活動こそが大切なのだと改めて思うわけです。

<日本を好きになって帰国してもらい 日本に来て良かったと思って帰ってもらい！>

このスローガンこそが個人の力の見せ所、ボランティアのやりがい所と思う次第です。この12年の間に政権が代わり留学生への政策の変化は多少あったかとは思いますが、RKKのこの趣旨(しゅし)は時代が変化しても色あせることがないと信じます。一人の留学生との関わりの時間がたとえ短くとも、双方(そうほう)に心の交流が芽生え、お互いに有意義な時間を共有することができたなら、それはもしかしたら、一人の親日家を誕生させる切っ掛け(きっかけ)を創(つく)り出す瞬間かもしれないと勝手に夢想しながら、若者達との交流を楽しんでいます。



老人家庭と留学生との助け合い

湘南地区 青池 愛子



私は、RKKの創立以来の会員であります。でも、5年間くらいは仕事をしていたので、RKKの活動はあまりしておりませんでしたが、私が辞(や)めないでいた理由は、いつも何気(なにげ)なく使っている日本語についてもっと深く考えてみたかったことと、それを外国人に教えることの難しさ— どうやったらわかってもらえるか、どうやったら日本語が身につくのか(自分が外国語をマスターしていくことも含めて)— を考えたり、工夫したり、学ぶことに関心があったからだと思います。

今まで10人くらいのいろいろな国の人々と出会い、日本の文化や考え方につ

いて違(ちが)いや共通点について語り合ったりしましたが、少しは彼らの日本文化の理解に役立っているかなあと感じながら続けています。

これからのRKKについては、ファミリー交流をさらに発展させて、留学生たちが日本語を学びながら、もっと日本の普通の生活を体験し、もっと深い交流ができるといいなあと考えています。

私の友人の娘(むすめ)さんがフランスに留学したとき、不動産屋から一人暮らしのおばあさんのところを紹介されたという話を聞いて、これは面白いなあと考えていたら、最近の日本の新聞にも、老人と若い人が一緒(いっしょ)に住みお互いに助け合おうというシステムが日本でもできつつあるという記事がでていましたが、私たちRKKでは、それを留学生とやると国際交流にもなっておもしろいのではないのでしょうか？

見学記

RKKの江の島ツアーに参加して

ポンラット ポンブラサーター Pornraht Pongpraset (タイ)



私はタイ出身の Pornraht Pongpraset (Pond.)です。横浜国立大学のIMP (Infrastructure Management Program)コースで勉強しております。

RKKでは、ファミリー交流会の太田清子さんが私のホストファミリーになってもらっており、RKKのいろいろな活動の情報を太田さんからいただいています。昨年はRKKによる鎌倉ツアーに参加し、今年は1月4日に行われた江の島ツアーに加わり、素晴らしい時間を過ごしました。

当日は藤沢駅に参加者全員が集まり、江の島ツアーに出発しました。

今回、江の島ツアーに参加したRKKのすべての皆さんが私どもを温かく迎えてくださったことが心に残っています。数人の方は英語を話せなかったのですが、私どもと何とか話そうと懸命に努力されていました。私はこのツアーの間、皆さんの温かさ、友情に触れました。お昼には、少しの食べ物、スナックをいただき、江の島の頂上まで登り、これまでにない感動を覚えました。そこでは、きれいな富士山を見ることができ、多くの写真を撮りました。非常にハッピーでした。再び、RKKのツアーに参加し

したいものです。大変、ありがとうございました。(原文は英文)

横浜国立大学大学院

留学生の便り

RKK中国語教室

独孤嬋覚(中国)(RKK中国語講師)



時間が立つことが早いです。2009年から今に至(いた)って、RKK中国語教室に皆様と一緒に中国語を楽しく勉強してきました。四声の中の第三声とそり舌音(ぜつおん)zhi, chi, shi, と舌歯音(ぜつしおん)zi, ci, si との発音仕方の差異など特に日本の方が苦手なところに重点を置いて発音の訓練を行いました。しかも、無味乾燥な発音訓練を楽しくするために、中国、日本の地名で異なる四声の組み合わせを練習する方法などを色々と工夫し、皆様の勉強意欲をより一層、導(みちび)き出しました。さらに、皆様の個々の異なる不得意なところに合わせて練習させ、クラス全員の語学カレベルの向上を図(はか)ってきました。これからも常に皆様の立場から物事を考え、新たな発想力を導き出すことができる中国語を勉強する方法を模索(もさく)していきたいと思ひます。そして、新たなメンバーが本教室に加わることを楽しみにしています。(原文のまま)

横浜国立大学院研究科

留学生の皆さんへ／For International Students

ボランティアの日本語個人指導を受けてみませんか！

RKKは下記の日本語指導（Japanese Language Tutoring）を行っています。

- ・ 日常会話（Daily Conversation）
- ・ ビジネス会話（Business Conversation）
- ・ 卒業論文、レポートの文書指導（Writing Japanese Thesis & Report）
- ・ 新聞／書籍等の読解（Reading Newspaper & Books）

その他に、**工場見学／社会体験**、**留学生との交流イベント**等を開催しています。

詳しくは、Home Page(Web Site) **RKK NPO 検索** を参照ください。

連絡先(Contact) 池添(Ikezoie), e-mail : BWR86550@biglobe.ne.jp

おもな活動（2012/10から2013/1まで）

理事会

◇12/24 午後、サポートセンターR604にて第2回理事会が開かれ活動報告、課題の審議がされた。

スタッフミーティング

◇12/24午後、サポートセンターR604にて23人のスタッフの参加のもと第3回スタッフミーティングが行われ活動グループスタッフ、地区交流会スタッフ、委員会スタッフそれぞれからの報告・連絡そして相談事項について話し合った。ディスカッションタイムには「かながわ国際ファンクラブ&留学生支援について」の情報の共有化と意見交換が行われ、RKKの就職支援についての総意が得られた。

活動グループ

◇日本語指導G：2012年度日本語指導法講習会(10/13-12/15)全10回を実施、30人が受講。

11/25 第8回日本語スピーチ大会を実施し、7人が発表し、総勢66人が参加。スピーチ草稿集を発行。

◇ファミリー交流G：11/18横国大スタッフと会員間の連絡会を実施。3月3日のお別れ会&雑祭りを企画中。

◇中国語学習G：10-12月にコースが終了し、1月から新たなコースが始まる。

◇社会・工場見学G：11/4江の島散策 27人参加、12/25 日本ゼオン・味の素工場見学 28人参加。

地区交流会

◇東地区：西地区との合同イベントを企画

◇西地区：10/28に定例西地区ミーティングをフレンズ戸塚で実施

◇南地区：11/4地区交流会を実施。11/13 弘明寺学生会館でウインターパーティー参加。

◇北地区：11/10 に交流会を鶴ヶ峰駅前の「みなくる」にて開催。白根学生会館の餅つき大会に参加。

◇中央地区：地区内マッチング活動推進。年2回の交流会は1月に実施。

◇湘南地区：10/1地区交流会を実施、6人参加。

委員会

◇会員委員会：12/24 マッチング検討会を実施。

◇広報委員会：RKKニュース50号記念特集号の編集作業。

◇企画委員会：横浜夢ファンドのPRおよびHPへのリンク。

◇会計委員会：10/16 中間監査、1/22 月次会計検討会。

◇事務室：12/24 理事会、スタッフミーティング、忘年会を開催。



ふるさと
留学生“故郷”を語る 【第8回 日本語スピーチ大会】

日本語指導グループ 布津 甚大

第8回日本語スピーチ大会を2012年11月25日(日)、かながわ県民活動サポートセンターにおいて、執(と)り行いました。講評は山田光義氏(RKK顧問・元横浜国立大学教授)をお願いしました。

今回のメインテーマを“故郷と私”として、留学生、社会人(外国人)による7人のスピーチがありました。

スピーカーはインド、中国、ネパール、ミャンマー、モロッコ、そしてロシアと6ヶ国と多くの国のご出身でした。スピーチはプロジェクターを使用し、スクリーンに映し出されるそれぞれの国の風景、民族衣装(みんぞくいしょう)および生活習慣(せいかつしゅうかん)等が話されました。

2部では、CDを使用して、民族舞踊(みんぞくぶよう)が披露され、我々が普段(ふだん)、接することができない異文化に触れることができ、非常に有意義な一時(ひととき)を過ごすことができました。

ゲストに非常に多くの会員、一般参加者、そして留学生の参加をいただき、盛り上がりました。

最後に、開催に際してご協力をいただきましたボランティアの皆様がたに感謝申し上げます。



白根 国際学生会館で餅つき大会



12月15日(土)、白根の国際学生会館にて恒例の餅つき大会が行われ、RKKより3人が参加し留学生と交流しました。

あいにく、天候に恵まれぬ中にも元気な留学生の参加でにぎやかな行事でした。長年、留学生を支援してきたこの施設も来年3月で閉館されることとなり、その後も学業を続ける学生には住むところ探しが課題です。(岩永 記)



RKKニュース50号(記念特集号)を発刊して

RKKが発足し13年、広報誌「RKKニュース」(季刊)が50号の発行を機にRKKの活動を振り返り、新たな歩みを考えてみました。50号の編集に当たり、特に印象深いことは、元留学生からの予想以上に多くの寄稿をいただいたこと、それにも増して、留学時に支援、手助けした彼等が卒業後、母国、そして日本で立派に活躍していることを知り得たことです。元留学生をはじめ、多くの方々のご協力を得、おかげさまでニュース50号を発刊できました。ご支援いただきました多くの皆様に心より御礼申し上げます

RKK広報委員会

NPO 法人 留学生と語り合う会 (RKK)

連絡先: 〒245-0008 横浜市泉区弥生台 9-1-12-407 萩原 敦

Eメール: rkk1025office@yahoo.co.jp; Tel & Fax: 045-813-8327

ホームページ: <http://homepage3.nifty.com/rkk/>

Friendship Association for International Students and Japanese Volunteers

RKK ニュース編集: RKK 広報委員会、編集担当: 深水 智明 Jan. 27, 2013